

8月5日土 カヌーワイルドウォーター
ジャパンカップ第4戦
8月6日日 カヌースラロームジャパン
カップキョクヨーシリーズ第5戦

台風5号の接近による影響が心配されながらも、天候に恵まれたカヌージャパンカップ奥州大会。胆沢ダム直下の奥州いさわカヌー競技場を舞台に、8月4日の公式練習を経て、5日にワイルドウォーター競技、6日にスラローム

競技が行われました。ワイルドウォーター競技には、男子8人、女子5人の13人がエントリー。この競技では細長いワイルドウォーター艇を操り約300mのコースを漕ぎ下るタイムを競います。優勝したのは佐々木翼選手

(34)と濱名としえ選手(42)。地元岩手県から出場した山田葉未選手(28)も3位入賞の健闘を見せました。

本大会のスラローム競技では、カヤックとカナディアン

の2種目が競われ、カヤック

には男子37人、女子13人、カ

ナディアンには男子14人、女

子5人がエントリー。オリン

ピック出場選手のほか、イン

ドネシア共和国など海外から

の参加もあり、大会を盛り上

げました。

競技は、ゲートと呼ばれる

2本のポールの間を通過しな

がらゴールまでのタイムを競

うもので、ゲートに接触した

り不通過となるとペナルティ

がタイムに加算されるため、

スピードだけでなく正確さが

求められます。赤のゲートは

下流側から、緑のゲートは上

流側からと通過方向が決めら

れており、選手たちは時に川

を遡る、流れを横切るなどし

て、コースに挑みました。

高レベルなコースとして知

られる同競技場では、わずかな

ミスが大きなペナルティに

つながることも。そんな中、

優勝した佐々木優選手(31)、

スラローム男子カヤック

優勝 佐々木 優 選手
(秋田県カヌー協会 / 秋田県)

優勝コメント・今季2度目の優勝。前日のワイルドウォーターで優勝した兄に負けられないとの思いがあった。奥州いさわカヌー競技場は難度が高く環境も良いので、何度も練習でも利用している。この勝利を国体につなげたい

ワイルドウォータースプリント女子

優勝 濱名 としえ 選手
(SCC / 東京都)

優勝コメント・昨年の国体でこの競技場が好きに。車で6時間かけて練習に通っていて、誰よりもこのコースで練習したと思っている。国体、みちのくひめかゆカップと共に2位だったが、ようやく優勝できた

スラローム女子カナディアン

優勝 Maryati 選手
(インドネシア共和国)



1

竹下百合子選手(28)、佐々木将汰選手(24)、Maryati選手(27)は激しい流れを乗り越え、勝利をつかみまし



2

スラローム男子カナディアン

優勝 佐々木 将汰 選手
(万六建設㈱ / 秋田県)



6

1紅白大福の無料配布で来場者をおもてなし 2市内からは岩渕政浩選手が出場 3審判員など多数のボランティアの協力をいただいた 4海外からも参加者が！ 5コースデザイナーの佐藤俊平さん(中央)もコース解説で会場を盛り上げた 6焼石クアパークひめかゆで歓迎レセプションが行われるなど、周辺施設も活用された



ワイルドウォータースプリント男子

優勝 佐々木 翼 選手
(秋田県カヌー協会 / 秋田県)

優勝コメント・奥州いさわカヌー競技場はいろいろな難しさを持っている日本一のコースだと思う。ここで1回目のジャパンカップとなる今大会を優勝できたことはうれしい



5

4

スラローム女子カヤック

優勝 竹下 百合子 選手
(キッコーマン株式会社 / 東京都)

優勝コメント・今季の前半はワールドカップに出場していたが、思うような漕ぎができていなかった。海外コースに近いこの競技場での大会で優勝して、次につなげたいと考えていた。まだまだ課題は多いが、目標を達成できてよかった



カヌー競技は、リオデジャネイロオリンピックでの羽根田卓也選手のメダル獲得などで、近年注目が集まっています。今回のジャパンカップも多くの観客が訪れ、選手に熱い声援を送りました。大会終了後に行われた清掃活動(クリーンリバー活動)でも多数の参加をいただくなり、多くの市民に支えられて大会は無事終了しました。